令和７年度第１回総合計画審議会　議事録（議事要旨）

と　き：令和７年５月 19 日（月）午後 1 時 30 分から
ところ：南魚沼市役所　大会議室

出席者
【総合計画審議会委員】（50 音順）
青木満昭委員　江川京子委員　島田雅士委員　舘野均委員　種村佐智子副会長
千喜良たまき委員　樋口和人会長　水野真理　以上８名

【南魚沼市】
林市長
片桐総務部長　平賀市民生活部長　南雲福祉保健部長　腰越産業振興部長　南雲建設部長
髙橋教育部長　上村上下水道部長　笛木消防長　関市民病院事務部長
事務局：（企画政策課）見留企画政策課長　梅澤企画主幹　小林行革主幹
滝澤主任　　渡邊主事
（Ｕ＆Ｉときめき課）若井Ｕ＆Ｉときめき課長
（財政課）中島財政課長

１　開　　会　　（進行：片桐総務部長）

２　会長挨拶
本日は素案について事務局より説明してもらい、本格的な審議は次回からとなると思う。総合計画に限らず、国等の方針による計画策定などもあり、やむを得ない部分があるが、計画を策定することに力を入れ過ぎてしまい、全ての計画に行政職員が目を通すことが難しくなっているのではないだろうか。計画の策定は重要であるが、基礎自治体の職員が、市民のためにしたい政策や事業などができるような方向であるとよいと思う。

【事務連絡】（見留企画政策課長）
（配布資料の確認、事務連絡）

３　議事（１）第３次南魚沼市総合計画の策定について

【事務局説明】（梅澤企画主幹）
資料１～４、当日資料１～２に基づき説明

樋口会長
ただいま第３次南魚沼市総合計画の主だったところを説明いただいたので、これより質疑に入る。意見等があればお願いしたい。

舘野委員
３点ほど確認したい。資料１の３ページ「市民の意識（まちづくりに関するアンケート）」として、基本施策「総合的な人口減少対策」「雇用の促進」が「早急な対応が必要」に位置づけられており、「総合的な人口減少対策」は、素案では基本目標２に位置づけられていると思った。しかし、基本目標２は、第２次総合計画（現行計画）における「教育・文

化」分野に、人口減少対策を加えた2 本立ての構成となっている。今後特に力を入れていかなければならない人口減少対策は、生涯学習などの“高齢者向け”施策とはマッチしないと思う。人口減少対策を核とするような内容を、基本目標２に、より詳しく盛り込んだほうがよいと思うし、「教育・文化」に関する内容は基本目標１や基本目標３に散らばらせることも可能だと思う。

次に「雇用の促進」について。前回の審議会におけるまちづくりに関するアンケート結果に関する集計・分析結果の説明の中で、“雇用”だけでなく、“収入”もあわせて課題であるという説明があった。また、本市には雇用の場は結構あるという説明もあった。実際、ハローワーク南魚沼管内の求人倍率は全国や県内平均より高い。それらを踏まえると表現として“雇用の促進”でよいのか、雇用に関連して何が問題なのかを明らかにし、それに対応した施策を書き込むべきだと思う。

基本目標５について。基本施策「移住定住の促進」が、行政のあり方に関する基本施策の中に混在してしまっていると感じる。“行政のあり方”は、市職員の皆さんがやろうと思えばできるものである。総合計画の基本施策として掲げるのは適切なのだろうか。むしろ、移住定住の促進や関係人口の創出・拡大などをもっとフォーカスした内容にしたほうがよいと思う。

梅澤企画主幹

庁内の策定部会で検討したい。

千喜良委員

基本目標２については舘野委員の意見に同感である。子育てと生涯学習は別だと思う。

資料４の４ページ「総合計画の施策の進捗状況」を見ると、達成度評価「達成済」の割合が４割未満と低い値になっているが、目標設定はどのようにしているのか。達成が難しすぎていないだろうか。達成が見えやすい現実的な目標を設定したほうが、行政も取り組みやすいと思うし、評価もしやすいと思う。

梅澤企画主幹

コロナ禍の影響で実績値が急変したものや、そもそも高すぎる目標設定などもあったと思うので、第３次総合計画では、第２次総合計画の進捗状況を踏まえた指標や目標値を改めて検討していきたい。

千喜良委員

これまで、毎年ではなく、計画期間の中間年に計画の見直しを図る際に目標値の見直しも行ってきた。第３次総合計画でも中間年に見直しを行いたいと考えている。

島田委員

人口減少対策を重要視していると思うが、本市は、コンパクトシティ化を検討しているのか。

片桐総務部長

コンパクトシティは、その単位が重要であり、本市では、市内12の地域づくり協議会の活動範囲を１つの単位として、行政サービスが行き届くようにしたいと考えている。また、人口減少対策について、第３次総合計画では、全ての施策をあげて取り組むことを想定して策定を進めており、基本目標２だけに位置づけることは考えていない。ご指摘のように基本目標２のみに位置づけられているという印象を持たれるということは、計画の作り込みが不十分なことによるものだと思うので、再度見直しをしたい。基本目標２の構成をこのようにしたのは、子ども達が育ち、学ぶ過程に“切れ目がない”ことを“見える化”したいという

意図によるものである。

林市長
　コンパクトシティ化は、公約でもあり、本市における一番の課題であると考えている。しかし、かつて言われていた“コンパクトシティ”とこれから取り組むべきものとは次元が全く異なってきている。
　地方都市では、人口減少や高齢化、一人暮らし高齢者の増加などが進む中、交通（移動の足）の確保に踏み出さないと、全ての施策が崩れかねない。そのようなことに対応するためには、広義のコンパクトシティの（概念の）中で、地域というよりコアな部分において、本市がこれまでの長い歴史の中で培ってきた「公助」（を活かすこと）が必要であり、今後、そういうことがないと行政だけでは様々な課題に対応しきれない。これらを踏まえ、ベクトルを１つにして取り組んでいく中で、交通、地域づくりの2 つが重要な課題である。加えて、上下水道、防災、医療などのあり方なども、今取り組まないと先を見ることができない状況となっている。また、それら（機能）の「集約化」も必要であるが、「集約化」による空白部分をつくってはならないし、他の地域と比べて利便性が劣るようなことはあってはならない。合理的になっても“魂が入らず”ということになってしまう。コンパクトシティ化と同時に、それを補完する方策を同時に進めていく必要があると考えている。それらを総合計画で網羅していくつもりである。不足があれば指摘してほしい。

舘野委員
　全ての施策をあげて人口減少対策に取り組むというのはそのとおりだと思うが、基本目標２に位置づけられている８つの基本施策のうち、１～４は乳幼児から中学生までを主な対象としているのに対して、５～８は高齢者が主な対象と感じる。例えば（基本施策「２－６生涯学習の推進」の施策である）「図書館機能の充実」は人口減少対策になるのか。そういうことをきちんと切り分けて“メリハリ”をつけたほうがよいと思う。

樋口会長
　先ほど事務局から説明があったように、庁内での見直しに期待したい。
　私からも１点。素案の中に「まち」や「まちづくり」という文言が出てくる。その意味するものは施策などによって異なると思うが、説明があるとわかりやすくなると思う。検討してほしい。

千喜良委員
　前回の審議会でも述べたが、基本施策「２－６地域文化の振興」の中に「食文化」の文言が入っていない。基本施策「４－３観光の振興」の「食のブランディング化」の中に文言を盛り込んでもらったが、ブランディング化の基盤として、観光だけでなく基本施策「２－６地域文化の振興」の中でも文言を入れるとよいのではないか。

髙橋教育部長
　検討したい。

樋口会長
　他に意見等がなければ議事（１）は終了としたい。これ以降、他に意見等があれば、事務局に「意見提出書」を提出してほしい。

３　議事（２）その他
　特になし

４．その他

今後の予定、「意見提出書」の提出方法などについて事務局より説明

５．閉会

種村副委員長

活発な審議に感謝する。また、市長をはじめ市執行部及び事務局のわかりやすい説明や回答にも感謝する。多方面で活躍する委員による活発な意見と、市執行部との審議により相乗効果が生まれ、よりよいまちづくりに貢献できるよう、今後もよろしくお願いしたい。

（閉会）15：30